

8月の台風

8月は太平洋高気圧が張り出し上空の西風が日本の北を流れる傾向があるため、夏台風は不安定な経路をとり動きが遅く大雨をもたらすことがあります。8月の台風被害に見舞われた愛媛県伊予市と高知県日高村の例をお伝えします。

■昭和45年の台風10号（愛媛県伊予市）

昭和45年（1970）8月21日午前8時、台風10号は高知県須崎市に上陸し、午前10時40分頃に双海町（現伊予市）を通過し、鳥取県米子市を経て日本海に去りました。双海町内の奥地では雨量が320ミリ程度となり、特に富岡川と豊田川は惨状を極め、道路、水田ともに一面河原と化しました。また、豊田港と上灘港付近では高潮による被害も受けました。双海町の被害は、25日現在で住家の全壊1棟、半壊6棟、一部破損35棟、床上浸水35棟、床下浸水225棟、田畑の流失・埋没10.5ha、冠水13ha、船舶被害11隻等に及びました。町では被災当日に災害対策本部を設置し、国県とともに復旧にあたりました。奥東の豊田川沿いに災害復旧碑が建立されています。＜双海町編「双海町誌」1971年、愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986年など＞



■昭和50年の台風5号（高知県日高村）

昭和50年（1975）8月17日、台風5号が高知県宿毛市に上陸し、北上して山口県に再上陸した後、日本海に抜けました。日高村では午後2時頃から豪雨が降り始め、あっという間に日下川の水が日高平坦部に氾濫して、全村居住地の80%が完全に水没しました。午後4時頃には、浸水家屋のほとんどは床上浸水となり、国道33号沿いの民家では水深が2階近くに達し、中心部の役場庁舎や農協の建物も1階は完全に水没しました。雨は17日夜半にやみましたが、増水は翌18日昼頃まで続き、交通は19日午後まで完全に途絶しました。村の被害は、水没地域450ha、家屋の倒壊・半壊・流失150戸、死者25人、大小の山崩れ740箇所、水没水田210ha、水没畑50ha等に及びました。村役場裏に殉難者の慰霊塔が建立されています。この水害を契機に、日下川の抜本的な治水対策が行われることになりました。＜日高村史編纂委員会編「日高村史」1976年＞

